

様式第2号（第11条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第1回えびの市総合教育会議
開 催 日 時	平成29年7月19日（水） 午前11時00分から午前11時45分まで
開 催 場 所	えびの市役所本庁3階AB会議室
出席委員（者）氏名	市長 村岡隆明 教育長 萩原和範 教育委員 松元國治 教育委員 御手洗美恵子 教育委員 宮田慶子 教育委員 貴嶋俊介
欠席委員（者）氏名	
担当課職員職氏名	学校教育課長 川野利光 同課長補佐 大河平隆公 同主幹 平川滋也 同教育係長 後藤富美恵 社会教育課長 領家修司 学校給食センター所長 下牟田一仁 総務課長 宮浦浩二 同行政係長 黒木博
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開 又は 非公開の別	1 開会 2 市長あいさつ 3 意見交換 ・30人学級事業について ・飯野高等学校支援事業について ・その他 4 閉会 ※全て公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	
傍 聴 者 の 数	1人
会 議 資 料 の 名 称	・会次第 ・「30人学級」に関するアンケート結果 ・宮崎県立飯野高等学校支援事業資料
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
そ の 他	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）

<p>学校教育課長補佐</p>	<p>ただいまから、平成29年度第1回えびの市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、市長よりごあいさつをいただきます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆さん、おはようございます。昨日は教育関係者との意見交換会ということで、大変有意義な意見交換ができたのではないかと考えていますが、今日は、今後どう教育行政を進めていくか、その参考になればと考えていますので、忌憚のない意見交換をよろしくお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長補佐</p>	<p>この後の進行につきましては、えびの市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定によりまして、市長が議長となりますので、進行を市長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>早速ですが、まず1つめの30人学級事業について、現状等を事務局から説明をしていただきたいと思います。</p>
<p>学校教育課主幹</p>	<p>30人学級は、現在3年が終わりました、4年目になっています。現状について説明させていただきます。お手元にアンケートの結果があると思いますが、ご覧ください。平成27年度、平成28年度で30人学級に関するアンケートを取っています。まず、平成27年度分をご覧ください。調査対象が30人学級を実施している学年の保護者455名、教職員112名に対してアンケート調査を実施しています。アンケートについては、「学力の向上」「生徒指導の充実」「信頼関係の深まり」と「今後の継続」について評価をいただいています。結果の考察を見ていただくとおわかりだと思いますが、それぞれいい評価をいただいている結果が出ています。特に平成27年度は、「生徒指導」について、教職員の90%以上が効果的と評価しています。「学力向上」「生徒指導」「信頼関係」の中では、「信頼関係」というのがなかなかわかりづらいという事がありまして、割合については、「わからない」が多いのですが、保護者よりも教職員の評価が高いのが平成27年度には（結果として）出ていました。今後の継続については、保護者が約80%、教職員が約90%、継続を強く望んでいます。特に小学校教職員の96.4%が高い評価になっていました。</p> <p>続きまして、平成28年度のアンケート調査結果をご覧ください。平成28年度は、保護者が633名、教職員が110名調査対象となっています。アンケート結果は、そこに載っているとおりですが、結果の考察をご覧ください、「学力向上」</p>

「生徒指導」「信頼関係」の全てで効果的となっています。「学力向上」「生徒指導」「信頼関係」の中では、小学校、中学校ともに「生徒指導」の評価が高いという結果になっています。今後の継続につきましては、保護者が約83%、教職員が約88%、継続を強く望んでいます。特に中学校教職員が約94%と高い評価になっております。

それから、資料はございませんが、学力について現状をお話しさせていただきます。NRTというテストがございますが、平成25年度、26年度を境に平均の偏差値が安定しているというのが結果として分かっています。特に数学、英語につきましては、平成21年度から資料としてあるのですが、かなりの数値の伸びが出てきています。英語検定の取得率については、中学校3年生の3級の取得率が平成25年度が45.8%、平成27年度が53%と取得率が上がっていきまして、全国の取得率と比べるとかなり高い数値で推移しています。

生徒指導関係で言いますと、不登校状況の推移を見てみますと、平成25年度が小中学校合わせて11名ということでございましたが、現在、平成29年7月で4名ということになっています。そのうちの1名は、もうちょっとで解消できる状況でございます。

今後の学級数の推移を見てみますと、平成29年度で、30人学級になって15学級が増ということで、15名の講師の先生がみえてらっしゃいます。平成30年度が学級増として17、平成31年度が15という数値で考えているところでございます。

市長

ありがとうございます。今、現状の報告がありましたけど、皆様方からご意見やご質問があれば出していただきたいと思います。一番最初に導入する前に、先生方の負担が増えるのではないかという心配もあったと思うのですが、そのあたりは、あまり無いですか。

教育長

ベテランの先生達から若い先生達への指導で負担が増えるというのが1点、それから中学校の場合、1学級を2学級に分けたときに、例えば国語の時間は2学級分しないといけないのではないかという（授業）時数が増えるのではないかという懸念がありましたけど、そこは、学校全体の時数で見たときには、変わらない、あるいはもっと減るというような感じで、ここはクリアしました。それと、若い先生への指導は大変であるとか、教職員の間でも若干ありました。だけど、若い先生が入ることによって活気が出てきた。そっちの方が大きいであろうというのが学校長との話でもございました。

教育委員	<p>人数が30人という数で限られると、教師と生徒の距離が近くなる。だから、コミュニケーションが非常に取りやすい。そういう部分では、生徒指導や生活面でもプラスにならないとおかしいんですね。市の方に非常に負担はかかるのですが、出来たらこういう形を継続していきたいという意向はあります。市長にもお力添えをいただければなと思っています。他の市町村も30人学級をしたいと思っているけど、なかなか財政が追いつかない。そういう意味では、非常にありがたいなと感じています。</p>
市長	<p>他の自治体で取り組みそうな所はありますか。</p>
教育長	<p>これからやろうという所は、木城町、串間市。串間市は、統廃合をしましたので、それによるメリットを作りたいという気持ちがあるものですから。</p>
市長	<p>えびので採用された講師の先生達が、次の年に県の採用に向かいますよね。皆さん方がえびののいい思い出を語ってくれるのも副産物になっているのかなと。</p>
教育長	<p>うちから育っていった講師の人達は、またえびのに帰ってきたいという思いがありますね。先日も地元の祭りがありましたけど、県の方で雇った方が都城に行かれて、祭りに帰ってきて、市長の前であいさつされたんですね。ああいう光景を見ると、えびのから巣立って行って、そしてえびのの子ども達の為に頑張ってくれるという方が育ってきているなという感じがものすごくありますね。</p>
教育委員	<p>これだけ多くのお金を注ぎ込んでもらってやってもらっていますので、校長、教頭も頑張っている。やっぱり色んな部分で実績を挙げないと。学校における若手の指導もえびの市は先進なのではないかな。それが教員採用あたりにはきちっと評価されたい。関連しているんですよね。かなり鍛えられるとは聞いています。学校現場もしょっちゅう教育長もいきますので。</p>
市長	<p>他にありませんか。無ければ次の飯野高等学校支援事業について、3年目になりますので、見直しの時期かなとも思います。事務局から説明をお願いします。</p>
学校教育長補佐	<p>飯野高等学校支援事業につきましては、平成23年度から市の方で本格的に飯野高等学校支援事業を打ち出していまして、教育委員会では平成27年度から行っています。平成23年度</p>

	<p>から平成29年度まで合計して4, 200万円程度の支援を行っています。</p> <p>入学者数の推移について、平成21年度から平成29年度までの入学者数を掲載しています。平成26年度は、定員120人に対して入学者数71人という落ち込みがあります。ここがあつて、平成27年度から給付型奨学金の事業を開始しています。特に注目していただきたいのは、平成29年度の市内の中学3年生のうち飯野高校に入学する市内出身入学者の割合を掲載していますが、147人に対して56人が飯野高校に入学しており、割合が38.1%ということで、児童生徒数は年々減っているわけですが、それでも飯野高校に入学する子どもの割合というのは今が一番高い数値を示しています。色々な事業の効果が、飯野高校に入学したいという気持ちに向かわせているのではないかと思います。</p> <p>在校生数ですが、これらの支援事業の効果が出てきていると思われませんが、平成29年度は1年生から3年生まで合わせて294人が在籍しています。この数字も平成26年度以降と比較して今が一番多い数字になっています。学校の方も少しは活気が戻ったのではないかと考えています。</p> <p>給付型奨学金については、1年生から3年生まで合わせて30人に給付しているところです。</p> <p>通学支援金については、西諸管外、また西諸管内であってもバスによる通学が必要なところを対象に支援しているところです。</p> <p>公営塾の実施状況については、1年生から3年生まで合わせて86人が受講している状況です。</p> <p>これまでの支援事業の経過ですが、資料に詳しく書いていますが、平成22年度に「飯野高等学校を守り育てる市民の会」が発足しまして、平成23年度から色々な支援事業の予算化をして、現在に至っているところであります。</p>
市長	<p>ありがとうございます。何かこの点について、ご質問等があれば受けたいと思います。給付型奨学金は、ずっと同じ子ども達が貰っているのですか。</p>
学校教育課長	<p>1年生は新規、2年生は2年目、3年生は3年目ということになります。成績が振るわなかった生徒もいなかったもので、現在のところはある程度のレベルで安定していますので、2年生、3年生ともそのまま継続しています。</p>
市長	<p>飯野高校に対する子ども達の評価はどうなんでしょうか。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>飯野高校の生徒に対する直接的なアンケートとか聞き取り調査は行っていませんが、一部の保護者から聞いたところによりますと、かなり高い評価をいただいているのではないかと考えています。</p>
<p>教育委員</p>	<p>最終的には家庭の判断、個人の判断になりますから、学校の方で強制的に飯野高校に行けとは言えないわけで、飯野高校自体が魅力ある学校になってもらう、そういう意味での支援事業だと思うんですね。方向的には、今いい方向に転んでいるのではないかという感じはします。</p>
<p>教育委員</p>	<p>卒業してから市外企業への就職がかなり多くて、市内はなかなか難しいみたいです。そういう受け皿は市の方で（整備）してもらわないと。残ってほしいんですよ、子ども達に。</p>
<p>学校教育課主幹</p>	<p>高校の時点で地元企業を知るのではなくて、その時点では、どうしても大きなところに目が向いてしまう。小学校の段階から関わられるように計画を進めています。商工会に行って説明して、協力していただける企業を集めるように今準備を進めているところです。</p>
<p>教育長</p>	<p>飯野高校の支援で今えびの市がしているのは、より高い大学へ行く、より良い就職をするために飯野高校がこれだけすごい高校だというアピールをするための施策でお金を出しているわけですね。だから、そこに効果が無いものについては、削っていく方向で考えないといけないし、あるいはお金をもっと増やさないといけないところの研究はしているところです。例えば奨学金は10人ということは、普通科だけで言えば8人に1人が奨学金を貰う、あり得ないことですよ。私立でさえ、特待生は何百人に1人というくらいの割合ですよ。だから若干減らしたり、そういうところは見ていかないといけないだろうし、例えば部活への支援、何年も続けているけど芽が出ないところは打ち切るべきであろうし、いつかは打ち切るものですので、そういうところを絞りたいなとは思っています。ここは頑張りますから、だから是非支援をお願いしたいという飯野高校自体の意気込み、先生達が燃えないと良くなりませんので。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>明後日は、飯野高校の先生達と本当に飯野高校にとって必要なものとか協議する場を設定しています。そこで色々な案が出てくるのではないかと考えています。</p>
<p>教育委員</p>	<p>高校がえびの市から無くなるデメリットについて、市民の間</p>

<p>市長</p>	<p>で何とかしないといけないという意識が広がっていけば、もっと違う形で何かできるかもしれないですね。</p> <p>今後も同じ施策を進めていくとして、来年度の予算案は11月くらいで決めるけど、引き続きやっていくのか、先ほど教育長がおっしゃったような対象となる事業の金額や人数を減らしたりという判断は早くしないといけないですね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>例年ですと、債務負担行為の手続が必要なので、9月定例会を目処にお願いしています。今回ですと、10月定例会ということになるかと考えています。募集についても、債務負担行為の手続を取らないとできないので、前のパンフレットをもとにして、募集を促すことはできると思います。補助金については、3年を目処に見直しや止めるか判断することになっていきますので、今年はそのあたりを精査して事業等の見直しをしていきたいと考えています。できれば、継続として中身の見直しをしていきたいと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>わかりました。その他何かありませんでしょうか。</p>
<p>教育委員</p>	<p>教育は、今大変厳しい状況にあるのではないかと思っているのですが、教育に対する価値観の多様化というのでしょうか。先週土日で教員の採用試験がありました。県教委が発表した中身については、今年定年退職者がたくさん出る、ここ2～3年ずっとそういう傾向にあると言うんです。それに対して採用希望者が少ない。倍率としては、4～5倍くらいという発表でした。これについては、今からの学校経営が厳しい状況だと思っているんですよ。ベテランがどんどん退職していく、若手が入ってくる中で核が薄くなっていく。だから、校長、教頭の指導はますます大事になってくると思うんですよ。今、えびの市には8人の校長がいて、（教育委員会）事務局の方で助言をしてもらっていますが、そういう意味では、（教育委員会）事務局は、大変忙しくなってくるのではないかと。今、教育委員会に3人の指導主事がいます。色々な形で学校に指導、助言ができる体制は、できたら今後も維持していただきたいということで、市長にも考えておいていただけるとありがたいと思っています。</p>
<p>教育長</p>	<p>福祉事務所や介護保険課（の業務）といったところも含めた子どもとの関係の複雑化もあります。例えば認知症のおじいちゃんがいる、親子関係がまずくなる、トラブルが起きるといった課をまたいだものが今後もっと起きるだろうし、そうなった</p>

	<p>時にえびの市には専門職はいません。福祉事務所でも、教育委員会でもいいですが、そのような指導主事的な者を置いていかないと、今後ものすごく家庭が複雑化していくと思いますので、できたらそのようなコーディネーター役が必要だろうと思います。</p> <p>市長 ありがとうございます。次の会議はいつ頃になりそうですか。</p> <p>学校教育課長 新年度の予算の絡みも出てきますので、遅くとも11月の初め頃になるかと思います。</p> <p>市長 わかりました。色々と意見交換もできましたし、成果も出していただいていますので、子どもの為に有効な予算が使われるように、お互い信頼関係を作っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。</p> <p>学校教育課長補佐 以上で平成29年度第1回えびの市総合教育会議を閉会させていただきます。</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証明する。</p> <p style="text-align: right;">平成29年7月26日</p> <p style="text-align: center;">えびの市長 村岡隆明</p>	